

海星学院高の松井さんと市川教諭カンボジア派遣

寺子屋交流に参加へ



日本ユネスコ協会連盟主催のカンボジアスタディーツアーに参加する室蘭・海星学院高校の松井さん(左)と市川教諭(右)

が8月中旬、日本ユネスコ協会連盟が主催するカンボジアスタディーツアーに参加する。カンボジアの寺子屋を訪問し、子どもや教員らとの交流を通じて、現地の教育の現状や課題への理解を深める。15日は室蘭ユネスコ協会(立野了子会長)が松井さんに支援金5万円を贈った。

高校生対象の同ツアーは昨年に続き2回目。全国47人の応募・審査を経て、松井さんら10人が選ばれた。派遣期間は8月12〜21日。首都プノンペンや世界遺産アンコールワットがあるシエムリアップなどを訪れ、歴史や文化、社会への理解を深めるとともに、「世界寺子屋運動」「世界遺産活動」など、国が抱える課題解決への取り組みを学ぶ。

松井さんは「寺子屋の先生や子ども、日本人スタッフ

らとの交流を通じて、教育の現状や問題、改善策を学びたい」と意欲的だ。教員対象の同ツアーは今

回が初めて。作文審査を経て、市川教諭ら全国の高校教員3人、小学校教員2人の計5人が選ばれた。派遣期間は8月12〜16日。松井さんとは別行動で、シエム



立野会長(左)から支援金を受け取る松井さん

リアップで寺子屋の子どもたちや関係者と交流する。同校はユネスコスクール加盟校として、2011年(平成23年)秋から書き損じはがきを集め、世界寺子屋運動に募金協力する活動に取り組んでいる。4年間で2万8千枚を集めた。同活動を始めるに当たり、市川教諭は同年夏に個人的にカンボジアを訪問し、現状を学んできた経緯がある。「寺子屋での交流を通じて、日本の教育を還元できた」と話している。また、現地に同校名が記載された銘板が飾られているのを「見たいですね」と笑顔。

15日は市内中央町の室蘭プリンスホテルで、室蘭ユネスコ協会の立野会長らメンバーが松井さんと市川教諭を激励。立野会長が松井さんに支援金を手渡し、「帰国後は校内のみならず、他校や地域の人々に現地の様子を伝えてください」と期待を寄せた。あす17日は青山剛市長を表敬訪問する。

(成田真梨子)

室蘭・海星学院高校(香川謙二校長、236人)の1年生、松井玲菜さん(16)